

GENROO

Car Entertainment Magazine

【ゲンロク】

ゲンロク 2019年11月号 (毎月26日発売)
9月26日発売 No.405 第34巻第11号

2019
NOV
No.405

11

定価 907Yen
+税

Porsche Taycan

タイカンの真実

ポルシェ初EV、その全貌

【メカニズム】未来を担う先進のシステム

【インタビュー】トップが語る戦略

【インプレッション】プロトタイプを味わう

メルセデス・ベンツ特選ショップ

【BRAND NEW】

ランボルギーニ・シアンFKP37
ブガッティ・シロンSS300+
フェラーリ812GTS / F8スパイダー

魅惑のプレミアムオープン

マクラーレン720Sスパイダー / BMW850iカブリオレ
アストンマーティンDB11ヴォランテ / フェラーリ・ポルトフィーノ
ベントレー・コンチネンタルGTコンバーチブル / BMW i8ロードスター



B MWの「駆けぬける歓び」に魅了される人はもちろん、たとえBMWフリークでなくても、BMW M2は人気者だ。今や稀有になったコンパクトなサイズ感を持つFRクーペに、M3/M4ゆずりの3ℓストレートシックスが詰め込まれるパッケージとあれば、誰の目だって魅力的に映るはずだ。

だからこそM2は、世界中からあらゆるアフターパーツが出回り、あの手この手でチューニングされる例も数知れず。そのほとんどが走りを鍛えるもので、適正なチューニングによって実際にポテンシャルは上がるし、なによりもM2に限らずともMは硬派な風情が似合う。

ところが目の前に現れた1台は、その潮流に沿っているようではないが、しかしひと味違うエレガントな雰囲気を放っていた。輸入車系チューナーとして定評のある「rd base」がプロデュースしたものだ。

ベース車は、M2の魅力を一層際立たせたかのようなM2コンペティション。最高出力は40psも上乘せされて410psへ。これだけのパワーを持って余すことなく、丁寧に鍛えら

HYPER FORGED HF-DiC for rd base BMW M2 competition

熱い闘志を秘めた
クールビューティー

REPORT●中三川大地 (Daichi Nakamigawa) PHOTO●土屋勇人 (Hayato Tsuchiya)



rd baseがプロデュースしたM2コンペティション。ハイスパーク製イグニッションコイルやワンオフマフラー、KWクラブスポーツなどで走り鍛えたチューニングカーだ。

HYPER FORGED HF-DiC PRICE LIST

19インチ(7.5J~14.0J)	13万6000円~18万9000円
20インチ(7.5J~15.0J)	14万7000円~20万6000円
21インチ(7.5J~14.0J)	17万7000円~24万8000円
22インチ(8.5Jx14.0J)	22万4000円~34万9000円

※価格は税別。

せるシャープなデザインが抜群に似合っている。装着されるサイズは純正に対して1インチアップとなる前後20インチ。それぞれ9・5J、10・5Jのディープコンケープで、ミシラン・パイロットスポーツ4Sが組み合わされていた。

純白のボディに対しての色味もいい。ディスクは鍛造つぼさを匂わせるブラッシュド・ライトブロンズ・アナダイズドというもの。アウターリムはハイポリッシュで輝かせて、ちよつとした大径感とそして優美な雰囲気を強調させる。シルバーに彩られたM製ブレーキキャリパーが奥にそつと潜むのがカッコいい。

先述したKWクラブスポーツのセッティングの幅を活かして、M2固有のわずかに膨らんだフェンダー内

にビタリと一致させる。もちろん、全開で踏み抜けるストローク量と、適正な減衰力を維持したままにである。こうしたセッティングの妙技が手伝って、他の何にも似ていない唯一無二のM2に仕上がった。

純然たるレーシングカーではなくれば、ハードなチューニングカーとも違う。増して性能度外視のラグジュアリードレスアップカーではない。それぞれのエッセンスを少しずつ取り入れ、それを巧みに融合させたもの。それは国産最高峰の鍛造技術を持って、ホイールに求められる強度や剛性、それに付随する軽量性能など、トコトン性能を追求しながらも、エキンチックなホイールを生み出すハイパーフォージドの世界観とも一致しているようだった。

れていて速い。実に玄人好みのスポーツカーだと評判である。

その潜在能力をハイスパーク製イグニッションコイルや同社のオリジナルマフラーで際立たせ、さらにKW製クラブスポーツで足まわりを最適化させる。ここまでは、いかにもMっぽい硬派仕立てだ。しかし派手なエアロはまどわず、ルーフやドアミラーをピアノブラックとして、あえてスポーツ路線のカーボン地を隠すなど、奥ゆかしいコーディネート

が随所に見受けられる。能ある鷹は爪を隠すような感覚だろうか。

そんなボディを一気に華やかに、そしてスポーティに見違えさせるのがホイールの存在だった。ハイパーフォージドのHF-DiC。同ブランド初のアシンメトリー（左右非対称）デザインを持つ銘柄として、スポーツカーの世界ではすっかりお馴染みとなった存在である。

しかし、HF-DiCは決してスポーツカーやウルトラハイエンドカーだけのものではない。ハイパーフォージドのユーザーフレンドリーなオーダーメイド体制が手伝い、あらゆる車種やカテゴリーを想定している。だからこそM2にマッチングさせても、違和感がまったくないばかりか、むしろ走り予感さ



KWのクラブスポーツで調整した足まわりにハイパーフォージドHF-DiCが収まる。フロント9.5J、リヤ10.5Jの20インチ。ブラッシュド・ライトブロンズ・アナダイズドのディスクに、ハイポリッシュのリムという色味が硬派なM2コンペティションを華やかに彩る。